



副教材「環境共生住宅とSDGs」

～指導用参考資料～

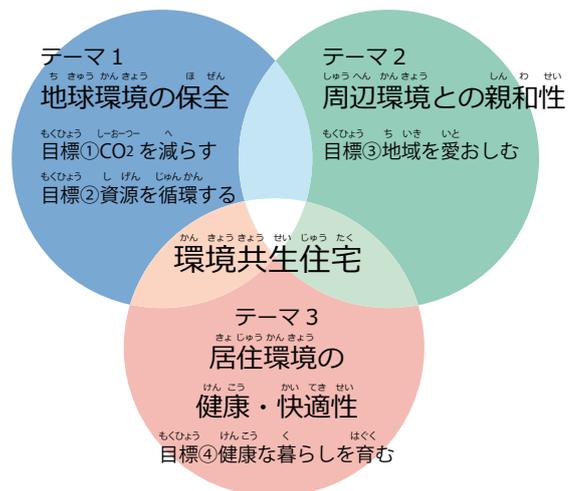
- ・ 本教材は、文部科学省 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）の技術・家庭科（家庭分野）の「(7) 衣食住の生活についての課題と実践」「ア 食生活，衣生活，住生活についての課題と計画，実践，評価」で活用していただくことをねらいとして作成したものです。その他、理科や総合学習等でもご活用いただけます。
- ・ 暮らしに関係する環境問題を解決するために考えられた「環境共生住宅」の理念から、「自分が暮らしたい環境共生住宅」をテーマに、環境共生住宅で提案している様々な工夫をトピックとして紹介しています。具体的な情報をオンラインで調べて組み合わせる学習も行います。
- ・ 付属のワークシートを使うことで、①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現といった流れで授業を行うことができます。

1 学習の前に ～環境共生住宅とは～

◆環境共生住宅の3つの理念

環境共生住宅とは、3つの環境共生理念「地球環境の保全、周辺環境との親和、健康で快適な居住環境」に基づいて作られる、地球と人に優しい住まい・まち、そして暮らしを包括した言葉です。

地球環境を保全する観点から、温暖化防止、資源・エネルギーの有効活用、生物多様性の保全などの面で十分な配慮がなされ、また周辺の自然環境と親密に美しく調和し、住み手が主体的にかかわりながら、健康で快適に生活できるよう工夫された、環境と共生するライフスタイルを実践できる住宅、およびその地域環境のことを言います。



◆環境共生住宅とSDGs

環境共生住宅は家だけでなく、その敷地、周囲、まち、国、地球というレベル・質の違う環境問題を、暮らしと住まいからのアプローチによって解決しようと考えられたものです。1992年の誕生から30年以上経ち、当時から課題とされていた環境問題の多くが、より深刻な状況になっていると言えます。

一方、「持続可能な開発目標 /SDGs」は、2015年に国連サミットにて採択された、社会・経済・環境三側面に配慮する目標です。目標達成には、野心的な目標を掲げ、目標達成を前提に、今すべきことを考え実行する「バックキャストिंग※」の考え方で臨むことが求められています。

この教材では、環境共生住宅で提案している様々な工夫を、トピックとして紹介しています。生徒自身が、自分たちの暮らす家やまち、そして自分の暮らし方からできる環境問題の解決方法について考えるきっかけとして、ご活用ください。

今、地球上でおきている様々な環境問題が、自分たちの暮らしとつながっていることを、私たち一人一人が意識することで、SDGs「持続可能な社会の実現」に向けての大きな力になることを願っています。

※バックキャストिंगとは

未来のある時点に目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。SDGsの課題解決など、長期にわたる行動を要する計画の策定に活用されます。2007年～2009年に発表された『2050日本低炭素社会シナリオ』はその代表的なものです。

2 学習計画の例

- ・ 授業は①座学、②個人作業（情報収集）③グループワークに分けての実施を想定しています。
- ・ 時間配分や中間交流、情報収集に関する時間は学校の状況に合わせて変更してください。

【ねらい】	環境共生住宅を支える3つのテーマ「地球環境の保全」「周辺環境との親和」「健康で快適な居住環境」と4つの目標「①CO2を減らす②資源を循環する③地域を愛しむ④健康な暮らしを育む」とSDGsの関連を紹介。 環境と共生する家づくりを通して実現できる、SDGsについて考えてもらう。
【副教材の構成】	①導入「環境共生住宅とSDGs」 環境共生住宅とはどんな家なのか、3つのテーマと4つの目標が、それぞれどんなSDGsの掲げる開発目標の実現につながっていくのかを紹介しています。
	②トピック紹介「環境共生住宅でできる工夫」 環境共生住宅の3つのテーマと4つの目標、それぞれの工夫を具体的に紹介しています。暮らしを支える住まいやまちづくりの中で、自分にもできることを考えてもらうため、SDGsの掲げる目標に貢献できる環境共生住宅ならではの工夫を紹介しています。
	③ワークシート「自分が住みたい環境共生住宅を考える」 ワークシートは「自分の考え、アイデアを書く」→「お互いの考え、アイデアを共有する」という過程を繰り返しながら、「環境と共生する住まいや暮らし」について学んだことを自分ごととして考えてもらうための教材になります。
【教材】	副教材「環境共生住宅とSDGs」：PDF
	WEBコンテンツ「くまの家 ものがたり」：PCまたはPADで閲覧
	ワークシート「どんな環境共生住宅に住みたいか考えてみよう!」：PDF、WORD

□時間配分の例

次	学習内容	指導上の留意点
1	20分 副教材【P1～4】を読み、環境共生住宅の概要説明を行う。	
	20分 副教材【P5～8】これまでに学習したことを思い出しながら、自分で取り組んでいきたいと思う環境共生住宅の工夫を、「くまの家ものがたり（WEBコンテンツ）」を使って調べる。	「くまの家ものがたり（WEBコンテンツ）」のURLは、副教材のP5～8に記載。 アクセス方法やページ構成は全体でのレクチャーが必要。
	10分 ワークシート：STEP1（記入） 環境共生住宅のテーマごとに設定されている「環境共生住宅の目標」をクリアするために、自分で考えた工夫を書いてみる。 調べたことをそのまま書いても、新しいアイデアを書いてよい。	
2	15分 ワークシート：STEP2（意見交換） 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ工夫や、その工夫を選んだ理由を話し合う。	
	10分 ワークシート：STEP3（記入、もしくは意見交換） 自分の選んだ工夫と他の人の選んだ工夫を合わせると、どんなふうに環境をよくすることができるか、考えて、ワークシートに記入。	
	10分 ワークシート：STEP4（記入） 2030年にむかって、どんな家やまちに暮らしていきたいか、自分の考えをワークシートに記入する。 ワークシート：STEP5（丸付け） 自分の住みたい家やまちづくりは、SDGsのどの目標の達成につながっていくか、アイコンに○をつけてみる。	
	15分 STEP3～5の内容を発表。みんなの考えを共有して、終了。	

4 ワークシート記入例

- 以下のワークシートは、「環境共生住宅とSDGs (PDF)」の巻末に掲載されています。
- WORD版をダウンロードし、生徒の学習内容に合わせて自由に変えてお使いいただけます。

記入例



環境共生住宅とSDGs
 名前 **小林 太郎**


どんな環境共生住宅に住みたいか考えてみよう!


STEP 1 これまでに学習したことを思い出しながら、自分で取り組んでいきたいと思う環境共生住宅の工夫を考えてみよう。

環境共生住宅のテーマ	環境共生住宅の目標	あなたの考えた工夫
テーマ1. 地球環境の保全	①CO ₂ を減らす	断熱性を高める 太陽熱でお湯を作る
	②資源を循環する	リサイクル建材を使う 節水機器を使う
テーマ2. 周辺環境との親和性	③地域を愛しむ	庭に実のなる木を植える 地域の材料を使う
テーマ3 居住環境の健康・快適性	④健康な暮らしを育む	自然素材を使う 段差を少なくする

STEP 2 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ工夫や、その工夫を選んだ理由を話し合ってみよう。

STEP 3 自分の選んだ工夫と他の人の選んだ工夫を合わせると、どんなふうに環境をよくすることができるか、考えてみよう。

自分のアイデア「太陽熱でお湯を作る」と、〇〇君が考えた「太陽で電気を作る」、▲▲さんの「太陽で部屋を温める」には「太陽のエネルギーを暮らしに利用したい」という共通のテーマがあった。太陽のエネルギーを電気やお湯、部屋を温めるために使えるような家にする、その分のエネルギーを減らすことができ、CO₂を減らすことにつながると思う。

STEP 4 2030年にむかって、どんな家やまちに暮らしていきたいか、想像してみよう。

自分が住んでいるまちには緑が少ないので、夏は木陰がなく、歩いて学校へ行くだけで汗だくになってしまう。自分が大人になる頃には、まちにもっと緑が増えて、暑い日には木陰で一休みできるような場所があるまちに住みたい。

STEP 5 自分の住みたい家やまちづくりは、SDGsのどの目標の達成につながっているかな。アイコンに○をつけてみよう。

